

平素より大変お世話になっております。

このたび小社では、標記の書籍を刊行する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

写真史に残る不朽の名作、奇跡の復刊！

『復刊 生きている』



株式会社青幻舎は、長らく品切れとなっていた記念碑的写真集『生きている』を、『復刊 生きている』としてアップデートしたかたちで2026年9月中旬に刊行いたします。

本書への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社青幻舎 東京支社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-3-6F

TEL 03-6262-3420 / FAX 03-6262-3423

広報担当・新庄 | shinjo@seigensha.com 太田 | oota@seigensha.com

■ 書籍概要

写真家・佐内正史の初めての写真集『生きている』は1997年4月に刊行されました。

決定的瞬間ではない、私写真でもない、誰も見たことがなかった写真群は大きな反響を呼び、新たな才能を世の中が知るところとなりました。

その衝撃は次世代の写真家にも影響を与え、新しい写真の潮流を生み、写真史的にもエポックな出来事として記憶されています。

『生きている』はその後版を重ねましたが、写真集の本文に使っていた用紙が生産中止となったことが原因で重版ができなくなりました。2007年の重版が最後となり、今では手に入れることができてなくなっています。

そんな中、青幻舎は2025年10月に創立30周年を迎えました。

30周年を迎えるにあたって、メモリアルイヤーのスペシャル企画として、今では手に入らなくなってしまった本を復刊しようというプロジェクトが立ち上がり、読者の皆様からリクエストを募ることになりました。

その結果、『生きている』の復刊を望む多くの声が寄せられ、復刊が決定したのです。

復刊にあたっては『生きている』のブックデザインを手がけた造本家の町口覚氏監修の元、新たな本文用紙選定のための印刷テストを重ね、ようやくオリジナルの代わりとなる用紙に辿り着いたことでプロジェクトが前に進みました。印刷に関しては当時の方法に拘り、製版フィルムを使用して版を焼き、油性インクで印刷しました。

一方、装丁に関しては表紙のイメージをアップデートし、復刊として生まれ変わった、新しさのある仕上がりとなりました。

刊行から29年、写真の歴史に新たなページが加わります。

■ 著者コメント

「復刊 生きている」

写真は生きている

わからないで花が咲いて表紙になった

一枚目のスカイラインの予感が俺の車になった

印刷立ち会い中、生きているの淀みがなくなっていくのがわかった

晴れて完成に近づいていく

もう少ししたら完成するだろう

道草を楽しんでいる

“復刊生きている”は、まだ途中だ！

佐内正史

■ 書誌情報

発売：2026年9月中旬

書名：復刊 生きている

著者：佐内正史

アートディレクション：町口覚

判型：315×280mm

総頁：64頁

製本：並製

定価：5,280円（本体4,800円）

ISBN：978-4-86831-064-8 C0072

■ 著者プロフィール

佐内正史（さない・まさふみ）

写真家。1997年、写真集『生きている』でデビュー。2003年、写真集『MAP』で第28回木村伊兵衛写真賞を受賞。2008年に独自レーベル「対照」を立ち上げる。2026年3月、最新作『雷写』を刊行、同時に岡本太郎記念館で写真展「雷写」を開催する。近著は『Strong memory』『写真がいつてかえてきた』『静岡詩』。主な展覧会に「Strong memory」book obscura（東京、2025年）、「展対照〈第二部〉」Vacant（東京、2025年）、「写真がいつてかえてきた」book obscura（東京、2024年）、「静岡詩」タカ・イシイギャラリー（東京、2023年）「静岡詩」静岡市美術館（静岡、2023年）、「対照 佐内正史の写真」川崎市岡本太郎美術館（神奈川、2009年）など。



Photograph by Mikae Yamamoto

■広報用画像 ※画像掲載にあたっては各画像にコピーライト表記「©Masafumi Sanai」をお願いいたします。

